

Title: 「潜水するひつじ」



高橋 知佳
1989年生まれ。他称・じゃじゃ馬。ついに本の世界から現実世界へと飛び込みます。

● 最近のエントリー

- ☞ [カウントダウン](#)
(2009.05.22)
- ☞ [夏への扉](#)
(2009.05.10)
- ☞ [ゆき、ゆき、ゆき](#)
(2009.05.06)
- ☞ [夢見なアンコール](#)
(2009.05.01)

● アーカイブ

- ☞ [2009年10月](#)
- ☞ [2009年09月](#)
- ☞ [2009年08月](#)
- ☞ [2009年07月](#)
- ☞ [2009年06月](#)
- ☞ [2009年05月](#)
- ☞ [2009年04月](#)
- ☞ [2009年03月](#)

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
Your Vision, Our Future



RSS 2.0

[潜水するひつじ](#) > 2009年05月 アーカイブ

09.05.22

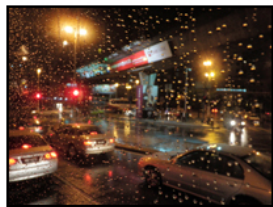
■ カウントダウン

[Tweet](#)

[Check](#)

ヒンドゥーには、カーリーという残酷な戦いの女神がいる。人間の生首や腕を着飾り、他の神々が敵わなかった悪魔を見事討ち取ったという、最強の神。そして敵を討ち取った喜びで勝利の舞いを踊るのだが、その踊りの衝撃で、大地は崩壊寸前。慌てて旦那さんのシヴァがその足元に横たわり、自身のお腹で踊らせることで衝撃を吸収、世界は事なきをえた。ちなみにシヴァはヒンドゥーのトップ3に入っている神さま。そんなシヴァを踏み台にして踊る女神... 最凶。

そんなカーリー女神さながらに、とある人物が私のお腹の上で怒り狂っている夢を見た。



スクーリングが迫っております。

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.05.22 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年05月 アーカイブ

09.05.10

■ 夏への扉

[Tweet](#)

[Check](#)

ハインラインの小説に出てくる猫は、長い冬が始まると家中にある無数の扉の、その向こうを、調べだす。夏へと続く扉がどこかにあると信じているのだ。

ここ、バンコクで。私も扉を探している。望みのものに通じる扉。そんなものあるわけないと、知っているはずなのに。

太陽の熱視線に、いたずらに肌を焦がすだけの虚無な行為。

雑踏の中にほだけてゆく感情は、壮麗な仏殿にはそぐわない。

幻影に手を浸しながら、じっと耐えるしかない。"時"ってやつに対しては。



平成がまだ一桁だった頃には、心とは、果たして脳にあるのか心臓にあるのか。そんな疑問を周囲と語り合っていた。結局そのときは答えは出せなかったけれど、人が死ぬと、数グラムの体が軽くなるという事を知って

インスタント幽体離脱が流行った。

無邪気だったのだ。

心がどこにあるにしろ、
確かにこの中にあるのなら、
体だって全てが思うようにはならないのだから、
心も思うようにならないのは当然だ。

と、いう本を読んだ。

ある種の人間は頷くだろうし、
ある種の人間は一蹴するだろう。

つきづきしい言葉を拗いあげて、呑み込む。
うとうしい作業にも思えるけれど、
そういうスローステップも必要なんだ。



ワット・アルンの猫たち。

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.05.10 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年05月 アーカイブ

09.05.06

ゆき、ゆき、ゆき

[Tweet](#)

[Check](#)

だいぶ遅くなりましたが、孤児院スナダイクマエにおける写真展について。

準備風景。



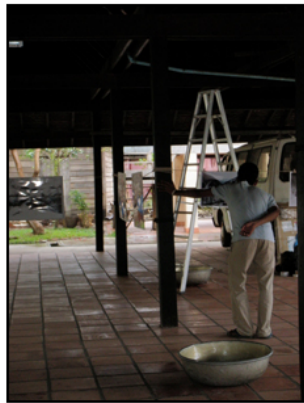
ものすごく斬新な角度から鑑賞する犬。



屋外での写真展で、もっとも心配だったのがスコール。
シエムリアップに着いて以来、夕方や夜には必ず降っていたスコール。
奇跡的に準備日の夜は降らず、当日の朝のちょっとした小雨だけ。



雨漏りは、孤児院の方々が対処してくださり。



和やかなムードで、写真展は無事終了しました！

片付けを手伝ってくれたり、伝統舞踊を見せてくれたり。
とっても温かな子供たち。



楽しい思い出が増えました。
ありがとうございました！

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.05.06 | [パーマリンク](#) | [コメント \(5\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

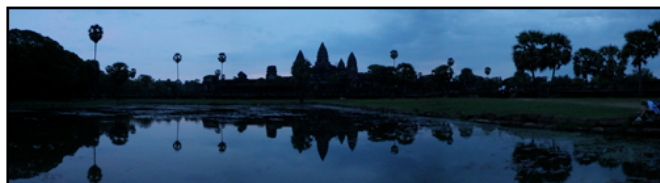
[潜水するひつじ](#) > 2009年05月 アーカイブ

09.05.01

夢見なアンコール

[Tweet](#)

[Check](#)



アンコール遺跡。





ヒンドゥー教と仏教の複合、そして人間の作品と大自然の複合。

遺跡内には「ラーマーヤナ」「マハーバーラタ」などの叙事詩をモチーフにしたレリーフが施されているけれども、この遺跡自体がひとつの叙事詩を紡いでいるように思えた。それも、めちゃくちゃ壮大な。



「明日と夕日の絵は絶対に必要だ！」
睡眠時間を削って追い詰めた。
けれど雨期に片足を突っ込み始めたカンボジアの空は、
気付けば雲がドッキリ、雷ビシャビシャ。
結局朝日はなんとか3回拝めたものの、夕日は一度も逢うことができなかった。

残念だったけれど、写真も大自然様との折り合いで成り立つものなので、
「ま、今回は縁がなかったんだな」
と仏教用語で納得をする。

夕日が出て来ない丘の上で、気を取り直して
偶然居合わせた僧侶ふたりを撮影。プラス雑談。
プノンペンから修行に来たという彼らは、おもむろに懐からデジカメを取り出した。
「記念撮影しようよ」
「...! おお!」

↓というわけで、Photo by 僧侶。



あきらめなければ、撮れる写真がある。

握手はできないけれど、笑顔で別れる僧侶たちと私。

そしてそれまでの様子を見ていた観光客が、
私が去ると同時に僧侶に群がりだして、小さな撮影会に発展した。



あらあら、と遠目で再び笑い合った。

持参したミネラルウォーターは帰る頃にはお湯になってるし、
だからといって缶コーラを買うと糖分目当ての蜂に襲われるけれど、
おかまいなしに次の日も足はアンコール遺跡へ向かってしまう。
アンコール・アンコール。
そんな感じだった。





カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.05.01 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)